

野洲市大篠原地域環境保全対策委員会 平成 28 年度第 4 回会議 会議結果

1. 開催日時 平成 29 年 1 月 17 日（火）14 時 00 分～15 時 40 分
2. 開催場所 野洲クリーンセンター 2 階 研修室
3. 出席委員 市川委員、岸本委員、山田委員、南委員、松下委員 以上 5 名
※欠席委員 1 名
4. オブザーバー 滋賀県南部環境事務所 松村所長
5. 関連業者 事業所 A 1 名
6. 事務局 遠藤環境経済部次長、吉川環境課長、同課奥野主事
中井野洲クリーンセンター所長、同センター南井専門員、四谷主査、松澤主事
以上 7 名
新野洲クリーンセンター建設工事請負業者 2 名
7. 傍聴者 なし
8. 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - (1) 地域内の環境負荷施設の取り組みについて
 - (2) 新野洲クリーンセンターばいじん処理物に係る再発防止対策の経過について
 - (3) 周辺河川等環境モニタリング調査結果(底質・水質ダイオキシン類)について
 - (4) 平成 29 年度大篠原地域環境モニタリング調査計画案について
4. その他
5. 閉会

9. 会議結果

議事(1) 地域内の環境負荷施設の取り組みについて

大篠原地域に所在する環境負荷施設の取り組みについて、クリーンセンター、環境課および委員会に出席いただいた事業所 A より説明させていただき、その内容について委員会として助言・指導をいただきました。

○意見、質疑等（・各委員 →市事務局 ⇒事業所 A・建設業者）

- ・今回、対象施設に事業所 D が増えた理由は何か。
→以前は小規模にやっておられたが、取扱量が増えたことから、廃棄物事業者に該当するのか確認するため、今回依頼した。
- ・環境課は、事業所 D と環境保全協定を結ぶ予定はあるのか。
→お願いしようと思っているが、代表者と連絡が取れていない。本委員会の出席を依頼するために伺った際にもお願いしたが、返事をもらえていない。協定を結ぶ方向では動いている。
- ・大篠原で協定を締結している事業所はいくつあるのか。
→大篠原に 18 事業所ある。このうち、委員会で対象としているのは、大規模なところということで事業所 C、廃棄物焼却炉を有しているところということで事業所 A と事業所 B である。
- ・事業所 D から次回には報告が出てくるのか。
→環境負荷が生じている可能性があることから、引き続き事業内容を確認していきたい。
- ・環境課は協定を締結する必要がある事業所と認識しているのか。
→現時点では必ずしも締結する必要はない事業所だと認識しているが、代表者に詳しく話を聞きたいと考えている。
→聞き取った上で判断したい。まずは情報をいただくところからと考えている。
- ・事業所 D は大篠原に来られてから 3 年あまり経っているが、分からない状態が 3 年も続いているのはいかがなものか。白黒はっきりさせた状態にすべき。
→元々小規模だったが、最近取扱量が多くなってきたため、聞き取りをしたいと考えているが、代表者に出会えていない。早いうちにはっきりさせたい。
- ・事業所 C の騒音の調査結果は報告を受けているか。
→今年度はまだであり、提出をお願いしている。昨年度は提出されており、問題のない結果で

あった。

- ・外周道路では空調の音がかなりしている。環境課も基準に適合しているのか、一度見て欲しい。
→了解した。
- ・事業所Aは、重機を使って屋外でごみの解体をしているが、機械のオイル等が雨で流され、排水として光善寺川へ流れ出ているのではないかと心配している。
⇒機械は重機で壊していない。手で取り外して売却している。油や液体は取扱品目がないので、引取りをしていない。オイルやグリスが塗ってあるものはあるが、当社では触らず、そのまま問屋へ出している。油は出ないはずだが、排水経路に油水分離槽を設置し、油はそこで汲み取る形を取っている。

議事(2) 新野洲クリーンセンターばいじん処理物に係る再発防止対策の経過について

- ・きれいな値で安心している。あの騒動は何だったのかと思う。キレート剤の10%が効いているのか、水銀が入っているごみが減ったのかが分かりづらいが、先生の評価としてはどうか。
- ・原因は正直分からない。仰ることは両方あると思う。原因は人為的なミスということだったが、ごみの中に突発的に入っていたということもあり得る。今の段階でははっきり言えないが、もう少し様子を見れば分かるのではないか。
- ・キレート剤添加率10%が効いているのか否かについてはキレート剤と水銀の錯体形成に対して競合する金属の多少やごみ組成の変化の影響が大きいいため、断定することは難しいが、キレート剤を多めに入れた効果は多分ある。ばいじんへの水銀の高濃度の含有の影響については、その後、経験されていないので、今後、モニタリングを継続し、判断していく必要がある。
- ・クリーンセンターはどう考えているのか。
→運営協議会で質問もあったが、含有量を想定で調べると、体温計が1本入ると75~100mg/kg程度計算上出てくると報告した。ボタン電池が入ると、原灰の処理上支障が出る100mg/kgを超える心配はある。入口対策は引き続きやっていく。また、キレート剤を10%以上にはどうかとの質問があったが、今は安定しているので、基本10%でやっていきたい。効果としては、20~30mg/kgの含有であれば、10%でほぼ抑え込める。今後のデータを含め、大篠原自治会に報告しながら、見ていきたい。
- ・原灰の簡易水銀測定計はリアルタイムで値が分かるのか。また、測定頻度はどの程度か。
⇒10分程度で結果が分かる。ただ、セットする前準備に30分程度かかる。毎日測定している。
- ・簡易検査で値が上がったときはどうするのか。
⇒現在はデータを取っているところである。高い値が出たときの取扱いは今後調整していく。
→値は20mg/kg前後で推移し、低いときは10mg/kg以下である。溶出は即時測れない。年度末に向けて管理値を設けるため、データを取っている。
- ・運営方法は内規で定めて管理して欲しい。データを集めて対策を取った方が値打ちが出る。

議事(3) 周辺河川等環境モニタリング調査結果(底質・水質ダイオキシン類)について

- ・結果的には問題ないということと、法面の土は流れていないということで良いか。
- ・問題はない。

議事(4) 平成29年度大篠原地域環境モニタリング調査計画案について

意見なし

その他

○意見、質疑等

- ・解体工事のダイオキシン漏洩を心配しているが、問題ないか。
→現在は粗大ごみ処理施設の解体を行っており、これが終われば資源化施設の解体を行う。まずはダイオキシンの汚染がないところから解体している。その後、焼却処理施設の養生を行い、除染作業に入るが、作業の詳細については次回の委員会で報告する。また、漏洩の確認については、プランターにきれいな土を入れたものを置いておき、工事前後でダイオキシンの増減を測定するほか、浮遊粉じんとダイオキシンの相関を調査した上で、浮遊粉じん濃度を常時測定することで、漏洩の確認を行う。今後の委員会で、随時報告を行う。
→下流への流出については、水路へガレキが落ちない対策を行うよう解体業者へ指示している。

以上